

米中ハチミツ貿易協定と 中国産ハチミツの近況

中華人民共和国からのハチミツ輸出に関して、その不当な低価格販売に対するダンピング制裁策を留保するための交渉が米中両国間で行われ、昨夏、ハチミツ貿易に関する協定が締結されるた。一連の経緯を、その後の中国産ハチミツの動きを含めてまとめてみた。

貿易条例 406 条の発効

ことの発端は、ハチミツの輸入量が頂点に達した 1993 年である。この年、アメリカのハチミツ輸入量は史上最高の 60617t に達し、輸入額は 5155 万ドルになった。このうち中国からの輸入量の前年比増は著しく、34826t (2480 万ドル) と量的には半数が中国からの輸入品という計算になっている。実際の市場での中国ハチミツのシェアも、1990 年の 8.5% から、この年には 23.9% にまで大幅に伸びた。一方で、輸入される中国産ハチミツの価格は、1991 年には 1t 当たり 816.47 ドルであったが、この年には 713.17 ドルに、さらに 1994 年の上半期には 640.74 ドルまで値下がりした。その結果、アメリカ国内のハチミツ取引価格が急落した。

この情勢下、1993 年 10 月、クリントン政権は、ITC (国際貿易委員会) に対して、中国から

のハチミツの低価格について貿易条例 406 条に基づく実状調査を行うよう請求した。この条例は、ITC がその輸入品によって国内市場が混乱していると判断した場合、その輸入品に対して大統領権限で制裁処置ができるというものである。

米中ハチミツ貿易協定

この調査結果を受ける形で、1995 年 8 月 2 日にアメリカ合衆国と中華人民共和国両国政府間でハチミツの貿易に関する協定が締結され、中国はアメリカあての輸出枠の制限と、最低価格の設定を受け入れることになった。

アメリカへの輸出量は年間 19,942t に制限され、消費動向に基づく変動幅は年最大 6% となった。この量は最近の実際の輸入量 (前述) からするとかなりの減少となる。価格に関しては他国からの輸入品の価格の 92% 水準が最低ライン (基準価格) として適用される (中国産ハチミツは 1994 年には他国のハチミツの 74% の価格で取り引きされていた)。基準価格はとりあえず 1994 年 12 月から 1995 年 5 月までの 6 か月間の価格に基づいて設定されるが、この有効期間は 1995 年 9 月までで、それ以降は、四半期ごとに商務省によって発表される基準価格にしたがうことになる。この基準価格は、今後次第に高くなると予想されている。

中国のハチミツ輸出概況

中国は世界最大のハチミツ生産国であり、同時に世界最大のハチミツ輸出国である。この地

表 1 輸出先別に見た中国のハチミツ輸出動向

輸出先	1993 年			1994 年			1995 年上半期		
	輸出量	単価 \$/t	輸出額 千 \$	輸出量	単価 \$/t	輸出額 千 \$	輸出量	単価 \$/t	輸出額 千 \$
アメリカ	33,495	713.09	23,885	28,263	714.33	20,189	2,762	782.40	2,161
日本	31,735	756.04	23,993	37,823	745.68	28,204	14,677	886.28	13,008
ドイツ	12,176	686.27	8,356	12,186	726.08	8,848	7,578	904.06	6,851
イギリス	7,817	619.04	4,839	8,644	665.90	5,756	4,691	871.88	4,090
香港	2,033	891.29	1,812	1,379	1,141.41	616	660	939.39	620
フランス	0	—	0	804	766.17	475	1,027	923.08	948
シンガポール	662	951.66	630	525	921.90	2,421	145	1,137.93	165
合計(他国含む)	96,538	727.14	70,197	102,285	733.53	75,029	36,320	885.30	32,154

(Parker, 1996 より)

位は揺るぎないが、各国の市場での中国の位置づけは微妙に揺れている（表1）。

1995年上半期の中国のハチミツ輸出総量は36,320tで前年比でかなりの減少となり、価格は反高した。最も低価格なアメリカ向けでさえ、前年の9.6%高の1t当たり782.40ドルである。しかも他の市場での価格の上昇はさらに急速であり、シンガポールでは1995年上半期に前年の23%高の1,138ドル/t、日本でも19%高の886ドル/tとなっている。また中国のハチミツの対アメリカ輸出量は、1993年には総輸出量の34.7%であったのに対して、1995年上半期では27.6%に減少している。

日本は、現在ではアメリカを超える、中国ハチミツの輸出先であり、総輸出量に対する日本向け輸出率は1995年上半期には前年の36.7%を大きく上回る40.7%に達している。特に近年のアルゼンチンハチミツの日本市場での低迷（不作による）が中国ハチミツの躍進に拍車をかけたようである。日本での中国ハチミツのシェアは大きく、1993年には88%に達していた。なお、日本は中国が生産する600tのローヤルゼリーの500tを輸入しており（1994）、今後もこの比率は動かないだろうと予想され、中国にとって最大の養蜂生産物市場となっているのは間違いない。

ヨーロッパではドイツ、イギリスが大きな市場となっており、ともに輸出量も増え、また価格も上昇している。アメリカでの動きに逆行しているフランスの動向は注目に値する。

一方、日本を除くアジア各国は中国ハチミツの輸出先としては先細りで、香港、シンガポール、インドネシア、マレーシアなど軒並み輸入量が減っている。

中国は1994年から貿易経済協力省の監督下で輸出を調整する入札システムを取り入れている。このシステムでは低価格のハチミツを要求する小市場を切り捨てる傾向にあり、100～300tレベルの市場（イラク、南アフリカ、モロッコなど）がシステム導入後消えていった。モロッコなど観光産業が有力視されるところは今後もハチミツの需要があると考えられ、中国の

撤退はある意味では他のハチミツ輸出国にとっては歓迎すべきことともいえる。

中国のハチミツ最新情勢

中国からアメリカ向けの輸出が減ったのはダンピング制裁の影響とは限らないようである。ひとつは中国のハチミツ生産の低落、その一方で中国国内の需要の伸びによる、輸出比率の低下の二つの理由があると観測されている。

1995年、中国のハチミツ生産は急落した。公式発表された生産見込み165,000tはさらに下方修正される見通しである。これは、1995年の南北中国の洪水、西域の干魃に代表される天候異変、10%を超えるインフレにともなう養蜂家の廃業、洪水や通行税などにより移動養蜂が困難になったことなどによる。

一方、中国国内で、飲料や加工食品用の甘味料としてのハチミツの需要が近年著しく向上している。原料価格の上昇もこの業界の伸びを妨げないらしい。そのため、最大のハチミツ輸出国中国が、1994年には40tのハチミツ（日本と台湾からそれぞれ17t）を輸入し、1995年には150tの輸入予測に対して、上半期ですでに106t輸入している。このうち53tがタイから、22tが台湾、17tが香港、5tがアメリカ合衆国からであるという。

中国は今年も不作と観測されているが、一方でアルゼンチンハチミツの好調な輸出が続き、アメリカのハチミツ価格は今のところ高値で安定傾向にある。しかし、天候に生産を左右されやすく、価格の変動も起こりやすいという点では、アメリカで今回“チャイナシンドローム”とまで呼ばれたような問題が、今後ほどの輸出国に限らず起きる可能性は否定できない。また中国の国内需要の急増に代表される、生産国の内部市場の拡大が、輸出競争に与える影響も見逃せない。（中村 純）

参考文献

- Fore, T., Jr. 1995. Am. Bee J. 135 (10):668-669.
 Parker, J. 1995. Bee Cult. 123 (11):623-627.
 Parker, J. 1996. Bee Cult. 124 (1):21-24.